

情報連絡員報告を中心とした

# 県内の中小企業動向

平成28年7月期

情報連絡員50名 回答数50名

## 全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。  
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

### 前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は4から2に減少。「減少した」業種は3から10に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は6から8に増加。「減少した」業種は11から8に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は2から0に減少。「悪化した」業種は11から14に増加。

### 前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は3から4に増加。「減少した」業種は10のまま変化なし。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は3から7に増加。「減少した」業種は12のまま変化なし。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は4から1に減少。「悪化した」業種は15から19に増加した。

## 製造業

### 豆腐製造

【県内全域】

27年度産国産大豆の入札価格が前年に比べ下がっている為、納入価格に反映され始めた。

### 酒類製造

【県内全域】

価格帯が高い特定銘柄酒(吟醸酒など)も引き続き好調。

### 製材

【県内全域】

全般的に不景気。会社は残すが、実質本業は休業となる会社が増えてきている。

### 製材

【木更津】

南用材、米材、ロシア材各1隻入港。在庫量は増加した。

### 印刷

【県内全域】

景況の変化について、1. ペーパーレスが徐々に浸食している。2. 紙の出荷量が減っている。しかし、紙メーカーは値上げの効果で増収増益。3. 地方の零細印刷会社への用紙デリバリー・サービスがどんどん縮小している。4. 円高の影響で用紙の価格は下がるはずだが、値下げの動きは無い。業界の動きについて、1. 大日本印刷がLGと組んで有機ELのデジタルサイネージの量産へ。2. ARをつかったポケモンGOがウ

けている。同じ技術でもコンテンツ次第でマーケットが生まれる。

### 電気鍍金

【県内全域】

今年度は対前年よりUPしたが、累計値では下がっている。

### 鉄工

【千葉】

足元の組合員各社の動向は、ここ数カ月特段大きな変化は見られないものの、受注減少等、芳しくない状態が続いている。

### 機械部品製造

【野田】

一部の業種では、業績が前月よりは好転したが、多くの業種では変わらず。各会員とも先行き不安な状況は変わらない。

### 機械部品製造

【流山】

業種により受注にかなりの差がある状況が続いている。

### 機械部品製造

【柏】

景況の変化は、開発・試作依頼は多い。自土砂・半導体は低調。業界動向は、医療関係・自動車海外向け金型・治具のニーズが多い。

### 金属製品製造

【船橋】

景況の変化は、4月以降低迷が続いている。

### 採石

【県内全域】

多前月比で若干伸びている。年間実績で前年度並みを予想。今後とも、港湾整備に伴う石材の需要

はあるものの、採取場の廃止などにより採取地の減少と資源の枯渇により生産箇所が限られ、需給が追いつかない状況である。

【土砂採取】

主な販売先である首都圏の生コン工場等の需要が低迷しており相変わらず停滞している。秋口まで現状の景況感が続くと思われる。山砂については、一部の地域で公共事業による需要が出てきている。

非製造業

【総合卸売】

【事務機器・オフィス家具卸】今年度上期の売上高は前年同期比5〜10%増。景気や回復が見られる。【総合】ピッキング作業等で多数のパート社員を雇用しているが、一昨年あたりから近隣時間給相場が上昇しており、人件費増加傾向が続いている。

【建築材料卸売】

南関東4都県の中で 東京、神奈川と埼玉、千葉ではつきり景況が分かれている。現在4都県とも前年割れで推移しているが、東京、神奈川は下期から回復兆し。来年度は急伸するが、埼玉、千葉は来年度も再来年度も回復する目途が

立たない。特に千葉は全国でも最も低迷する懸念がある。

【自動車解体】

スクラップ価格は小幅だがさらに下がり、円高が進んだことで輸出向け部品の販売も厳しい。業界動向は、自動車リサイクル法の運用の見直しが進んできて、再資源の先行きの方向性が少しわかってきた。

【卸売業】

消費はあまり芳しくありません。飲食関係の動きもよくありません。東京では都知事選で活気があるように思われますが、地方では景気はよくありません。業界動向は、新技術の開発、倒産、転廃業はありません。

【電気機器小売】

6月の高温から7月の低温でエアコンの売れ行きが極端に下がった。販売全体も下がっている。梅雨明けの猛暑に期待したい。夏はエアコンが売れないと商売にならない。あるメーカーがスマートハウスを目指そうとキャンペーンを打った。これからの家電業界が目指すべき重要事項と思われる。

【青果小売】

果物は約半月程、例年より入荷

が早くなっている。商品アイテムは例年より良い状況である。しかし、8月の入荷が少なくなる予想となっている。やや不安定になる見込み。

【中古車仕・販売】

新車の販売台数が伸びていないよう、中古自動車の流通台数は、前月同様に減少傾向。業界動向は、燃費不正問題の対象であった一部の車種で販売が再開された。供給が安定してくる8月の動向を注視したい。

【小売】

ファッション関連品は、夏物の動きがあり、昨対を上回った。日用品関連は減少傾向であった。食品関係は、相変わらず客数減で苦戦をしている。回復傾向になってきている。飲食関係は、家族連れ客が若干減っている。売上が減少傾向にある。

【小売・サービス】

景況の変化について、ここ数年ますますボーナス月による買い物需要は無くなっている。商店会には、買回り品店が少ない点もあるが平月と全く変わらない。中元売り出しも盛上がりには欠けた。業界の動きについて、冬物の展

示会も終わって感じることは、高級品扱いのメーカーは来客数が少ないのが目に見えて感じるが低価格帯メーカーはそれなりに人を呼んではいるが、ほんの一部で大多数が苦戦している。

【土木建築サービス】

景況の変化について、2016年度経済財政白書で、景気は個人消費や設備投資が力強さを欠き、最近の円高などで「デフレ脱却へ向けた改善の動きが鈍化している」と閣議報告されたことと軌を一にして、政府では秋の臨時国会に向けて28兆1000億円の経済対策を提出し、景気の下支えと働き方や産業構造の一体改革に取り組み、成長力を底上げするとしている。8月3日の内閣改造を踏まえて、今後「一億総活躍社会」の実現に向けた対策が展開されることに期待し、次年度以降の組合のあり方（取り組むべき業務・対応等）を検討する。

【輸出入】

景況の変化について、7月の売上は前月比で伸びたが、前年同月比は横ばい状況であった。その他は変わりなし。